

# 令和7年度 与那原町ヤングケアラー実態調査結果

令和8年5月  
与那原町

# 目次

---

1 調査概要	.....	1
2 ヤングケアラーとは	.....	2
3 集計方法	.....	3
4 アンケート結果	.....	4~7
5 集計結果	.....	8
6 ヤングケアラー認知度	.....	9
7 相談・支援	.....	10~12

# 1 調査概要

## 1-1 調査目的

本調査を通じて、「ヤングケアラー」の認知度向上を図るとともに、町立学校の小学生、中学生及び高校生世代が担っている家族の世話の状況や、それに伴う学校生活・日常生活への影響、支援のニーズ等を把握し、ヤングケアラーの早期発見と支援策の検討を行うための資料とすることを目的とします。

## 1-2 調査方法

- (1) 町立小学校・中学校の生徒は学校にて実施
- (2) 高校生世代は、アンケート調査依頼書を自宅に郵送し QR コードにて実施

## 1-3 調査期間

令和8年1月13日（火）～1月30日（金）

## 1-4 調査対象と回答数

調査対象	小学生 (町内小学5・6 年生)	中学生 (町内の中学生)	高校生世代 (町内の高校生 世代)	合 計
配布数	461	697	699	1,857
回答数	382	585	72	1,039
回答率	82.9%	83.9%	10.3%	56.0%

## 2 ヤングケアラーとは

### 本調査におけるヤングケアラーの定義

本調査における「ヤングケアラー」とは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話を日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」をいう。

(ヤングケアラーのイメージ (例))

 <p>障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている</p>	 <p>家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている</p>	 <p>障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている</p>	 <p>目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている</p>	 <p>日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている</p>
 <p>家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている</p>	 <p>アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している</p>	 <p>がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている</p>	 <p>障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている</p>	 <p>障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている</p>

©一般社団法人日本ケアラー連盟「こんな人がヤングケアラーです」

# 3 集計方法

集計については、下記の基準に基づきアンケートからヤングケアラーの集計を行う。

機 関	ヤングケアラー非該当	ヤングケアラーと思われる子ども	
			何らかの影響が出ていて、支援が急がれる子ども
厚生労働省	本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを	日常的に行っている子どもで	責任や負担の重さにより学業や友人関係などに影響が出てきてしまうことがある
沖縄県	世話をしている家族が「いる」 不定期のもの、比較的軽微なお手伝いの範疇のもの等を含む	家族の世話を ・「週3日以上」行っている、 又は、 ・「週2日以下」だが1日あたり3時間以上行っている	世話をしているためにやりたいけどできないことがある (1つ以上に該当)
与那原町	世話をしている家族が「いる」	家族の世話を ・「週3日以上」行っている、 又は ・「週2日以下」だが1日あたり3時間以上行っている	・世話をしているためにやりたいけどできないことがある(小学生用) ・世話をすることでつらさ・ストレスを感じる(中学生・高校生用)

# 4 アンケート結果

## 4-1 家族のなかにあなたがお世話をしている人はいるか

	小・中学生	高校生世代	合計
いる	59	3	62
いない	908	69	977
割合	6.1%	—	—

## 4-2 誰のお世話をしているか（複数回答可）

	小・中学生	高校生世代	合計
母親	18	1	19
父親	11	0	11
祖母	6	1	7
祖父	6	1	7
きょうだい	37	0	37
その他	10	0	10

お世話をしている相手

- 1位 「きょうだい」 37人
- 2位 「母親」 19人
- 3位 「父親」 11人

## 4-3 お世話を必要としている人の状況

### (1) 母親、または父親をお世話している理由（複数回答可）

	小・中学生	高校生世代	合計
①高齢（65歳以上）	4	0	4
②介護（食事や身の回りの世話）が必要	1	0	1
③認知症	2	0	2
④身体障害	0	0	0
⑤知的障害	0	0	0
⑥精神障がい（疑い含む）	5	0	5
⑦依存症（アルコール・ギャンブル等）	0	0	0
⑧上記の⑥、⑦以外の病気	0	1	1
⑨日本語が苦手	0	0	0
⑩仕事が忙しい	6	0	6
⑪母親が妊娠中・乳幼児がいる	3	0	3
⑫わからない	12	0	12

(2) 祖母、または祖父をお世話している理由（複数回答可）

	小・中学生	高校生世代	合 計
①高齢（65歳以上）	3	2	5
②介護（食事や身の回りの世話）が必要	2	2	4
③認知症	5	2	7
④身体障害	1	1	2
⑤知的障害	0	0	0
⑥精神障がい（疑い含む）	1	0	1
⑦依存症（アルコール・ギャンブル等）	0	0	0
⑧上記の⑥、⑦以外の病気	1	0	1
⑨日本語が苦手	0	1	1
⑩わからない	5	0	5
⑪その他	1	0	1

「祖母・祖父」をお世話している理由

1位	「認知症」	7名
2位	「高齢（65歳以上）」	5名
2位	「わからない」	5名

(3) きょうだいをお世話している理由（複数回答可）

	小・中学生	高校生世代	合 計
①若い	19	0	19
②介護（食事や身の回りの世話）が必要	0	0	0
③身体障がい	1	0	1
④知的障がい	0	0	0
⑤病気	0	0	0
⑥日本語が苦手	0	0	0
⑦わからない	12	0	12
⑧その他	7	0	7

「きょうだい」をお世話している理由

1位	「若い」	19人
2位	「わからない」	12人
3位	「その他」	7人

#### 4-4 どのようなお世話をしているか。(複数回答可)

	小・中学生	高校生世代	合計
①家事（食事の準備や掃除・洗濯）	28	1	29
②きょうだいのお世話や保育所等への送迎	16	0	16
③身体的な介護（入浴やトイレの世話など）	7	1	8
④外出の付き添い（買い物や散歩）	13	1	14
⑤病院への付き添い	2	0	2
⑥感情面のサポート（話を聞く）	10	0	10
⑦見守り	30	2	32
⑧通訳	1	1	2
⑨お金の管理	4	0	4
⑩薬の管理	4	0	4
⑪その他	7	1	8

1位	「見守り」	32人
2位	「家事」	29人
3位	「きょうだいのお世話 や保育所等への送迎」	16人

#### 4-5 一緒にお世話をしている人(複数回答可)

	小・中学生	高校生世代	合計
①母親	38	1	39
②父親	25	2	27
③祖母	3	0	3
④祖父	2	1	3
⑤きょうだい	27	3	30
⑥しんせきの人	3	0	3
⑦自分のみ	15	0	15
⑧福祉	3	1	4
⑨その他	2	0	2

1位	「母親」	39人
2位	「きょうだい」	30人
3位	「父親」	27人

#### 4-6 お世話の頻度

	小・中学生	高校生	合計
①ほぼ毎日	28	1	29
②週に3～5日	12	1	13
③週に1～2日 1日3H以上	0	0	0
④週に1～2日 1日3H未満	9	1	10
⑤1か月に数日	10	0	10
⑥その他	2	0	2

小・中学生ではお世話の頻度として、「ほぼ毎日」と「週に3～5日」と回答した児童生徒は、合計40名であった。

上記の40名が、ヤングケアラーと思われる。

割合としては全体（967名）の4.14%となっている。

高校生世代は、お世話の頻度として、「ほぼ毎日」と「週に3～5日」と回答した児童生徒は、合計2名であった。

※高校生は回答率が10.3%であるため割合は算出せず。

#### 4-7 日常生活になんらかの影響が出ている

	小・中学生	高校生	合計
世話をしているためにやりたいけどできないことがある 世話をすることでつらさ・ストレスを感じる	18	2	20

小・中学生でヤングケアラーと思われ、かつ日常生活に何らかの影響を受けている児童・生徒は18人であった。

早急に支援が必要と思われる割合は、全体（967名）の1.86%であった。

高校生世代でヤングケアラーと思われ、かつ日常生活に何らかの影響を受けている生徒は2人であった。

※高校生は回答率が10.3%であるため割合は算出せず。

## 5 集計結果

		世話をしている家族が「いる」		ヤングケアラーと思われる子ども	
				家族の世話を ・「週3日以上」行っている、 又は ・「週2日以下」だが1日あたり3 時間以上行っている	何らかの影響が出ていて、支援 が急がれる子ども ・世話をしているためにやりたい けどできないことがある（小 学生用） ・世話をすることでつらさ・ス トレスを感じる（中学生・高校 生用）
与那原町	人 数	小学生・中学生	59	40	18
		高校生世代	3	2	2
	割 合	小学生・中学生	6.10%	4.14%	1.86%
		高校生世代	—	—	—
沖縄県調査結果（R4）	割 合	10.7%		5.5%	1.8%

今回のヤングケアラー実態調査において、小学校5年生から中学校3年生までの児童生徒のうち、ヤングケアラーと思われる割合は4.14%であった。町全体では、上記の割合にすべての小学校5年生から中学校3年生の児童生徒数を乗じ算出したところ、約48人と推計された。

また、上記と同様に試算したところ、ヤングケアラーと思われる児童生徒のうち、町全体で支援が急がれる小学校5年生から中学校3年生の児童生徒は約22人と推計された。

※高校生世代については、回答率が10.3%であるため、割合は算出していません。

# 6 ヤングケアラー認知度

## 6-1 「ヤングケアラー」という言葉をこれまで聞いたことがあるか

	小・中学生	高校生	合計
①聞いたことがあり、内容も知っている	222	20	242
②聞いたことはあるが、よく知らない	277	10	287
③聞いたことはない	468	12	480

ヤングケアラーの認知度としては、「聞いたことがあり、内容も知っている」と回答した小中学校の児童・生徒は合計で222人であり、認知度は23.0%であった。

※高校生世代については、回答率が10.3%であるため、認知度は算出していません。

## 6-2 あなたは自分が「ヤングケアラー」にあてはまると思うか

	小・中学生	高校生	合計
①あてはまる	8	3	11
②あてはまらない	244	0	244
③分からない	74	0	74

自分がヤングケアラーに該当するかどうかの設問については、合計11人であった。

# 7 相談・支援

## 7-1 あなたがお世話をしている家族のことやお世話の悩みについて誰かに相談したことがあるか

	小・中学生	高校生	合計
①ある	10	2	12
②ない	49	1	50

## 7-2 「ある」と回答した人は誰に相談したか

	小・中学生	高校生	合計
①家族（母、父、祖父、祖母、きょうだい）	7	2	9
②しんせき（おじさん、おばさん）	0	0	0
③友達	5	1	6
④学校の先生（保健室の先生以外）	0	0	0
⑤保健室の先生	1	0	1
⑥スクールソーシャルワーカーやカウンセラー	1	0	1
⑦医師や看護師、その他病院の人	1	0	1
⑧ヘルパーやケアマネ、福祉サービスの人	0	1	1
⑨近所の人	0	0	0
⑩SNS上での知人	1	0	1
⑪町役場関係の人	0	0	0
⑫民生委員・児童委員の人	0	0	0
⑬その他	0	0	0

### 7-3 「ない」と回答した人は、相談していない理由

	小・中学生	高校生	合計
①誰かに相談するほどの悩みではない	41	0	41
②誰に相談すればいいかわからない	1	0	1
③相談できる人がいない	2	0	2
④家族のことを話したくない	3	1	4
⑤家族から他人に相談しないよう言われている	2	0	2
⑥誰かに相談したいが、家族に対して嫌な思いを持たれたくない	4	0	4
⑦相談しても変わらない・相談したいと思わない	19	1	20
⑧その他	3	0	3

### 7-4 「ない」と回答した人で、家族のことやお世話の悩みを聞いてくれる人はいるか

	小・中学生	高校生	合計
①いる	31	0	31
②いない	18	1	19

### 7-5 学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要な支援があるか

	小・中学生	高校生世代	合計
①自分のことをついて話しを聞いてほしい	6	0	6
②家族のお世話について相談したい	1	0	1
③家族の病気や障がいのケアについて	2	2	4
④自分が行っているお世話をすべて誰かに代わってくれる人やサービスがほしい	1	2	3
⑤自分が行っているお世話を一部誰かに代わってくれる人やサービスがほしい	2	2	4
⑥家族が適切な治療や介護サービスを受けられるよう手続きをしてほしい	1	2	3
⑦自由に使える時間がほしい	3	1	4
⑧進路や就職などの相談に乗ってほしい	3	1	4
⑨自分と同じような状況の人と情報共有	0	0	0
⑩勉強や受験勉強のサポート	2	2	4
⑪お金の面で支援	8	2	10
⑫特にない	36	0	36
⑬分からない	7	0	7
⑭その他	1	0	1

- 1位 「特にない」  
 2位 「お金の面で支援」  
 3位 「分からない」  
 4位 「自分のことについて話しを聞いてほしい」  
 5位 「家族の病気や障がいのケアについて」  
 「自分が行っているお世話を一部誰かに代わってくれる人やサービスがほしい」  
 「事由に使える時間がほしい」  
 「進路や就職などの相談に乗ってほしい」  
 「勉強や受験勉強のサポート」